

木を伐らないで! —— 4

仙台堀川公園(東京都江東区)



一昨年公園内で生まれたツミ3兄弟。この兄弟が生まれた巣があったアカマツも伐採される。ツミは東京都の絶滅危惧種



子どもたちに大人気だった「ザリガニ池」。現在は、管理不足で草地になり、魚もエビも全滅。子どもたちも、餌とりのサギの姿もない

親水性がないとされた仙台堀川は自然の汽水。ハゼ釣りの人も子育てのカルガモも共存する「整備計画」の水路は工業用水で、汽水はなくなる



鷹もすむ「区民の森」がなくなる？ 意見交換の提言を生かす「再修正案」に期待

鷹が子育てをするまでになった公園で道路拡幅、面積削減などから、樹木を大量伐採する計画に住民らが反対、計画が見直されている

矢部正治 | 仙台堀川公園を考える会 事務局

東京都江東区の仙台堀川公園(以下、仙堀)は、「『区民の森』をテーマに整備した延長3.7km、面積10.4ha、都内最大の親水公園」で、江東区は仙堀の3分の1に当たる清洲橋通りから小名木川までの南北延長1.1kmを対象にした「仙台堀川公園整備計画」(以下、整備計画)^{*}を進めています。近く公表される再修正案への期待を含め、整備計画の問題点と考える会の取り組みを紹介します。

納得できない「川を埋め、樹木8割伐採」の整備計画

「整備計画」は、2016年4月に初めて区民への説明が行われました。計画は、公園両側の道路との一体整備で事業費約40億円、公園の工期は2017～21年度の5カ年。①狭い歩道と車道、電柱の倒壊の危険→道路拡幅、無電柱化、②公園施設の老朽化、親水性の低い水路→実感できる緑、親しみやす

い水路、③公園内の歩行者と自転車の錯綜→自転車走行空間の確保による分離、を目的としています。

具体的には、両側道路幅13m→21m、公園幅34m→26mと公園を削り、既存樹木の3分の2を伐採、園内の仙台堀川を埋める(暗渠化)など、仰天の内容でした。

というのも私の家は仙堀に面していますが、計画をまったく知りませんでした。公園緑地・造園芸関係の事務局や広報などを仕事にしており、たまたま妻が区報に説明会があると教えてくれ、初めて計画を知りました。

説明会では、参加者から計画への疑問が相次ぎ、十分な説明のないまま時間切れ。なぜ、樹木を大量に伐採しなければならないかの回答もなく、納得できませんでした。

整備計画への危機感から「考える会」が活動を開始

2010年のCOP10に参加するため、江東区と区内の市民団体が結成した「生物多様性チーム江東」の定例会で、仙堀のことを話すと、それは問題だと区の担当部署と会合の機会を得て、計画の課題や改善点を指摘しました。しかし、計画への危機感は拭えず、「『仙堀』整備計画について」^{*}のチラシを発行。

四季折々、さまざまに利用される公園



花見。緑陰とゆりの空間は、計画により削減され、中央水路で分断される



ツミのいた松林中で虫捕り



落ち葉プール遊び。活用すればカブトムシなどの育成も…



保育園や幼稚園、小学校も盛んに利用し、落ち葉や木の実の材料にもなっている。残存護岸は落ち葉の飛散や飛び出し防止にもなっており、撤去で事故増加も懸念される。また、残存護岸は「かさ上げ」「張付け」を繰り返してきた歴史を遺す、史跡とも言える



開園時のパンフレットは、森への成長を念願。「整備計画」では、かつて川を行き来した船の遊具も撤去される

地域住民をはじめ、計画に疑問をもつ方々と連携し、8月に「仙台堀川公園を考える会」として、区議会への陳情や計画の見直し・反対の署名活動を開始しました。

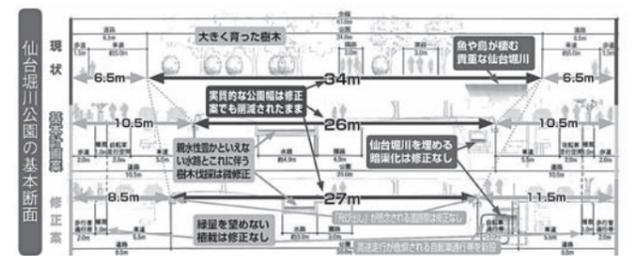
こうした中、江東区は2016年12月に修正案^{*}を作成、2017年2月に区民への説明会を開催。しかし、既存樹木の58%、2,884本の伐採など、根本的な見直しは行われず、十分な説明も得られませんでした。

不十分な調査、上位計画との不整合など課題続出

そもそも整備対象の仙堀は、地盤沈下で地面より高くなった川の危険性から、川の一部を残し、区内でもこの地域に緑地が少なかったことから、「区民の森」として整備。1980年の開園から40年近くの歳月を経て、みどり豊かで人々が憩い、環境学習にも利用される自然味のある地域に愛される公園になりました。

この象徴が東京都の絶滅危惧種「ツミ」鷹の営巣ですが、計画ではツミが営巣したアカマツも伐採します。生息生物や利用動向など、基本的な調査不足と言えます。生きものの生息環境については、NPO 法人ネイチャーリーダー江東の鳥類調査担当で、日本野鳥の会の特別会員でもある荒川洋一氏が「仙台堀川公園鳥類数調査報告」^{*}などで説明し、計画の悪影響を危惧しています。

また、江東区は、基本構想「水と緑豊かな地球環境にやさしいまち」を目指し、「江東区CITY IN THE GREEN (CIG)」を



「仙堀」整備計画の概要 (「仙台堀川公園を考える会」発行のチラシNo.004、2016.12.23より抜粋)

策定。「みどりと自然の基本計画」で公園整備において区民との協働を明示しています。ネイチャーリーダーやエコリーダーも区が養成、認定し、その取り組みは評価されますが、こうしたこれまで区の事業に協力してきた方々も、今回の計画に疑問を寄せています。

「仙台堀川公園整備事業意見交換会幹事会」が提言

考える会の署名は現在も継続中で、自筆4,000名、ネット500名を数えます。ご協力いただいた方々の想いを重ね行政への働きかけを続けてきました。

仙堀整備は、土壌調査で基準値を超える鉛が見つかり、再調査で2018年度着工に延伸。区はこの機会を活かし、区長の委嘱による公募区民7名と市民団体2名、町内会2名、コンサル4名、行政4名による「仙台堀川公園整備意見交換会幹事会」を7月に設置しました。

幹事会は、2017年9月と10月に区民参加の意見交換会を2回行い、これまでに得られた1,000を超える意見や新たな要望なども加え、①地域の価値を高める公園・河川・道路の一体整備を行うこと、②水、緑、土といった仙台堀川公園ならではの自然味あふれる魅力を保全継承すること、③再修正案の検討を区民に開かれたかたちで取り組むこと、という3つの柱からなる「仙台堀川公園整備事業への提言書」を11月7日に提出しました。

私も幹事会の一員でしたが、意見交換会をはじめ、反省することばかりです。しかし、水没による二次災害もある電線地中化や暗渠、工法など、新たな検討課題や一方通行では解消できない道路の知見も得られました。

仙堀の樹木は、緑陰だけでなく、延焼防止、住宅の視線緩和など、多様な機能を有しています。また、昨年は都市公園法などが改正され、樹木や公園の活用こそが問われています。

今回の提言を踏まえた「再修正案」とその説明会に期待しています。

「仙台堀川公園を考える会」の事務局を担い、公募区民の1人として「仙台堀川公園整備事業意見交換会幹事会」に参加。公園の目の前に住む一住民でもある

■仙台堀川公園を考える会

「仙台堀川公園整備計画」による公園改悪の危機感から、区とともに活動してきた市民団体や地域住民により発足。再修正案の検証や、大きく育った公園の樹木を含め、地域の価値を高める活動も「もっとステキな仙堀」を目指す。署名は継続して受付中

〒136-0073 東京都江東区北砂6-27-14
E-mail info@senbori.com
TEL 03-5635-9955 / FAX 03-5635-9956
http://senbori.com

^{*}の資料は上記HPでDL可能